

万九千六百三十九円とございます。

つぎに、支分に於ける繰上金に於て、百三十九円と
七千三百九十九円は、主として取資の給子その他の雑
等でございます。予備費が十三万三千円、これは支
出に於ける翌年度繰越額が二十四万二千三百四十
四円でございます。

以上非常に稚拙な説明ですが、貸付会計の
説明を終らせていただきます。ところで、海軍二層
庫のうへに二層あることとお願ひいたします。

・議員 石川清美君 二層に監査委員から監査の結果に
つて報告願ひします。 監査委員 大野行天君
・監査委員 大野行天君 昭和四十三年年度福生けい益
貸付特別会計の監査結果を二報告
申しあげます。



(昭和四十三年年度福生けい益貸付特別会計) 支分
決算書審査意見書 附読 省略
以上でございますが、補足説明を申しあげます。

貸付会計におきましては、過去二年間に於ける、未収の
原因は、取資金の不足によるもので、福生けいにおけ
る、益貸付の現況から資金の増額を要望する
参ります。おかげで、子やもろ子と資金を、百
円に増額する。本決算におきましては、二十四万円の剰余
金を得たことは、同年度のいたりまことに、
しかし、かかる益貸付の増勢は、いかにも樂觀は許
さず、その運用を誤り、すくなくとも、
る恐れがある。その貸し出しに、
評価を行はうと、もに、
健全な状態を保持するよう、
以上の結果、本決算は適正なものと認め、次を





す。工事請負費で三百三十一万三千四百一十円、これは倉蔵
庫その他と場内の整備等を行なった費用でござい
ます。この償費で百四十八万二千四百一十円を支出し、ありま
す。予備費はゼロ、計支当額が二千九百二十万
八千三百三十三円で差引の現金が百三十七万三千四百
九十四円が翌年度繰越額とほそおりです。
大変難しくは説明で恐縮でございますが、海軍工
務課のうちご認定あらうことをお願いいたします。
（石川信義君）フツに監査委員から監査の結果につ
き報告願います。監査委員 下野行天君
（監査委員 下野行天君登壇）
（昭和四十三年）昭和四十三年度と畜場特別会計
の監査結果をご報告申し上げておきます。
（昭和四十三年）昭和四十三年度と畜場特別会計
決算審査意見書（朗読）省略
以上でございますが、補足説明をいたしますと、



本と高橋会討に、つては昭和四年三月度決算に
おき、既取の硬直化を指摘した。此二うであります
か、本決算に、おきくは、一、百三十七万三千円の剰
余金を計上し、おきます。こかし、その内容を検討
した。こす、と、カメに、おき、お手度繰越金、百三
十万円が収入と、おき、おきます。こ、か、その、前年
度収支をみた場合、は、百九十四万円の赤字という
こと、か、で、さ、る、わけ、で、さ、うに、企業、的、見、地、か、り、原、価
償却費、各種、引当金等、を、みた、場合、には、大、や、り、は
赤字、という、こと、か、で、さ、る、お、き、ます。さ、うに、自、家用、水道、事
業、に、百、三十、万円、が、度、度、プール、等の、関係、から、一般、公
司、に、お、き、負担、し、て、お、き、ます、の、で、本、決算、に、お、ける
経、費、の、抵、当、は、お、き、り、好、ま、しい、結果、と、は、い、え、ま、せ、ん。
さ、う、後、は、さ、う、に、収入、の、増、加、を、お、か、る、と、お、に、記、費、を、節
減、し、て、健全、な、財政、状態、と、な、る、よう、な、努力、を、お、願、い、す
る、お、き、で、さ、る、お、き、ます。お、お、その、必、理、経、過、等、に、つ、て、

[illegible]

二、ハナハチ質疑を行はしむ。

議長(又川信義君)
以上で質疑は
お終りです。

おほかりいしたす。
 したのち義題とほつた
 リオの義果オの十三号に
 しては二のヤ部定するこ
 に二の義二のオをへか

謙長 子川晴美 君
二重 謙長 子と 認めず。 子之謙長 果

オホナ三号にアケハニモ
ました、譲送するに決めたこ

夏 石川常葉君 四時十分子で休憩したす。

于俊三時分休題

藁
 石川信義君
 午後四時
 十一分
 休
 頭
 不
 に
 引
 之
 焼
 之
 合
 藁
 七
 用
 之

日程方丈、議案方丈十四号昭和四十三年度福生所水道事業会計決算認定についで、議題といふに示す。議事係長より議案の朗読をいたさせます。

謙良(石川)宿義君
理事者より提果理由の説明を求

收
入
收
入
橋
本
孝
藏
君
登
壇

収役橋本孝蔵君
昭和四十三年度
福生町水道事業

會計決算書に於て説明用之を示す。

昭和三十九年度に於ては、三期拡張工事
の第一期工事の第一期目に入つた
手である。また、水道料金改訂につ

さすは、職員等々、その非常にお得あり、
リ、その、実施段階に入つたわけ、
、さういふ関係で、収益と、特に順調に計画、
、あり、進ん

、その、損益計算書と、二、覽いた、
、

農業収益、は、冷水収益、受託工事収益、その、他の、
収益、は、一億、千、百、十、万、千、百、七、十、日、
、農業費用、は、
、原水及び、浄水費、配水及び、冷水費、受託工事費、
、総保費、我価償却費、資産減耗費、等、七、千、
、六百、四十、一、万、三千、三百、四十、日、
、農業利益、と、こ、ろ、三、
、千、百、三、十、九、万、三千、百、三、十、日、と、な、つ、て、あり、ます、
、農業、外、収益、と、こ、ろ、受取利息、及び、配当金、受託
、工事収益、は、雑収益、等、七、千、二百、一、十、七、万、千、四百、四十、
、日、
、当、手、度、総利益、は、四、千、一、百、三、十、七、万、二千、二百、十、
、日、
、さうに、農業、外、費用、は、マ、ぼ、リ、支、払、利息、受託
、工事費、等、七、千、百、三、十、九、万、七、百、六、十、二、日、
、当、手、度、

の、純利益、は、七、百、二、万、一、千、百、十、八、日、と、な、つ、て、
、ある、わけ、で、こ、う、い、ま、す、
、

三、頁、を、お、開、き、い、た、に、さ、す、資本、の、収益、及び、
、支、出、の、関係、に、お、き、さ、す、は、収、入、七、千、三、百、一、十、三、万、
、九、千、九、百、四十、九、日、
、一、は、主、と、こ、ろ、起、償、工事、費用、
、金、九、百、五、千、二、万、九、千、九、百、四十、九、日、
、二、は、に、は、加、入、者、
、組合、の、の、金、業、が、入、る、お、る、わけ、で、こ、う、い、
、ま、す、
、支、出、に、お、き、さ、す、九、千、九、百、三、十、万、千、七、
、百、五、十、八、日、
、建設、改良、費、は、九、千、六、百、十二、万、千、二、
、百、七、十、八、日、
、起、償、の、償、還、金、は、三、百、十、八、万、千、七、十、三、
、日、
、資本、の、収、入、額、が、支、出、額、に、下、足、する、額、千、
、五、百、七、十、六、万、千、八、百、二、日、は、
、当、手、度、損、益、勘、定、
、留、保、資金、は、十、五、万、九、千、七、十二、日、と、当、手、度、損、益、勘、
、定、留、保、資金、千、四、百、九、十、万、九、千、七、百、三十、日、で、相、
、い、た、に、な、つ、て、こ、う、い、ま、す、
、七、頁、を、お、開、き、い、た、に、さ、す、さ、す、
、四、十、三、年、度、の、剰、余、

金の計算よりいいます。負債積立金三百四十万
円、建設改良積立金が千四百十六万四千四百十七
円とございます。未処分利益剰余金が四百一十七
万七千五百十九円、前年度の利益剰余金が分額として
二、負債積立金が二千五百円、建設改良積立金
が三百六十円、計三百三十九万九千九百九十九
円、繰越利益剰余金の増減額
が七十一万七千七百七十九円とございまして、さ
うから先きほ
ろ二、説明申す所、前年度繰越利益剰余金が七百三
十一万九千七百七十九円、当年度未処分利益剰余金
が千四百十六万三千三百三十九円とございまして、
千四百十六万三千三百三十九円とございまして、
十有七、お聞きになったところ、剰余金の処分計
算書より、当年度の未処分利益剰余金が千
百六十四万二千三百三十九円、剰余金の処分額とし
て、前年度繰越利益剰余金が九十九万九千九百九十九
円、法定の利益の二十



分の一以上積立すると、千八百八十九円を積立
ておきます。建設改良積立金が一千八百八十九
円、繰越利益剰余金が七百七十四万二千三百三
十九円とございまして、
つぎに貸借対照表に参ります。資産の部
で、有形固定資産が九億一千六百六十九万三千
九百一十六円、無形固定資産が一萬三千九百一
十六円、合計が九億一千八百八十三万三千三百
三十二円とございまして、流動資産として、現金預
金が三千百六十九万四千三百三十九円、未収金
が七十九万九千九百九十九円、九百一十六万
九千九百九十九円、貯蔵品が九百六十九万九千
九百九十九円、流動資産の合計が四千二百九
十三万九千九百九十九円、負債の部で、流動負債
が四千九百九十九万九千九百九十九円、資本の部
に参ります。資本が四千九百九十九万九千九百
九十九円、剰余金の部で、前年度繰越利益剰余金
が七百三十一万九千七百七十九円、当年度未
処分利益剰余金が千四百十六万三千三百三十九
円、合計が二千一百八十八万三千三百三十九円